

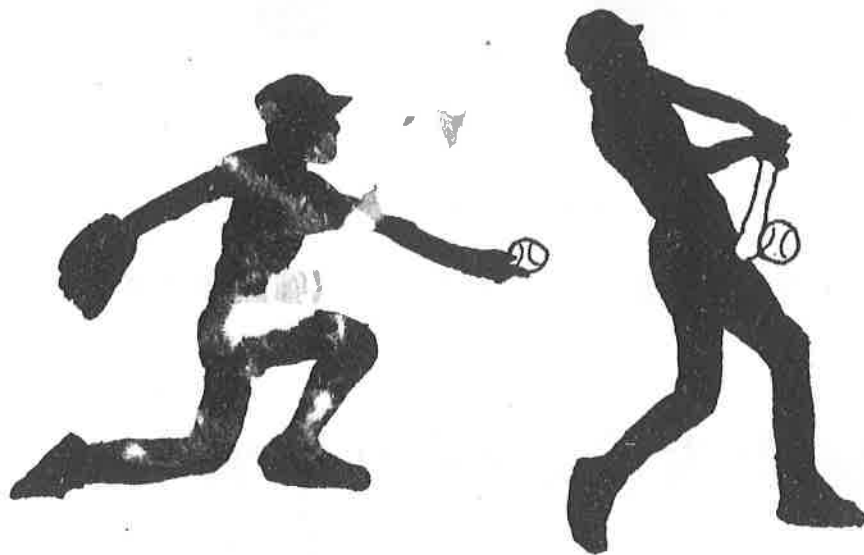
平成3年度 教育課程研究集会

## 小学校体育

楽しさが深まる

体育学習の授業改善

—— (野球型の運動) ソフトボールの指導を通して ——



八重山地区研究委員

吉 浜 剛	(平真小)
黒 島 一 哉	(平真小)
漢 那 憲 吉	(大浜小)

## I, 全県共通問題に対する基本的な考え方

体育の目標は、児童達一人ひとりに運動のもつ楽しさを味わわせ、生涯を通してスポーツに親しむことのできる態度や能力を育成することをめざしている。その目標から、学校体育を生涯スポーツの一環としてとらえる考え方が導き出され、その要請に沿うような体育の授業改善が、声高にさげばれて久しい。

そこで「一人ひとりに運動の楽しさを味わわせる授業」という全県テーマに沿い、どのようにすればその運動の楽しさを児童が味わうことができるかということに視点をすえ、一人ひとりを大切にし、それぞれの子どもの興味・関心や現在の力にあった学習目標（めあて）をもたせ、その（めあて）を満足させることを前提とした、又安全面にも気を配った学習指導の工夫改善を試みてみたい。

## II, 研究テーマ

「楽しさが深まる体育学習の授業改善」  
《野球型の運動》  
ソフトボールの指導を通して

## III, 研究問題と研究の必要性

「生涯スポーツ」の考え方から、今回の指導要領の改訂で、野球型の運動が日本の社会の中で国民的スポーツとしての地位を得ているという解釈にたち、前回の改訂において、運動の種目内容からはずされていたソフトボールが高学年のボール運動の領域で復活した。

しかし、野球型の運動（ソフトボール）は、技術面での、個人差が大きいばかりではなく、男子と女子とでも、興味・関心のもち方にすこぶる違いのある運動である。そればかりか、運動量の保障という点（1時間の授業の中でほとんどボールに触れることのできない児童がいる・攻撃側で、打順を待つ時間が長い等）で、サッカーやバスケットなどの他のボール運動とくらべて、解決しなければならない問題も多い。その観点から指導法の研究の必要性が出てくる。つまり、「運動の特性」をどうとらえ、その機能的特性にいかに関与させるかということで、《学習

過程の工夫) (めあての持たせ方の工夫) (学習過程での「場」の設定の工夫) (安全面での指導) などの研究が必要になってくる。

そこで、野球型の運動(ソフトボール)のより望ましい指導のあり方ということで、授業実践を中心に研究を進めることにした。

#### IV. 研究経過

5月8日	「研究テーマ」についての話し合い
5月22日	「研究計画」「研究内容」等についての話し合い
7月5日	理論研修(野球型の運動を扱った研究集録や専門書の読みあわせ)
11月6日	「指導案」検討会
11月9日	研究授業(吉浜教諭・6年) 研究の「中間まとめ」を公開授業研究会で発表 (吉浜教諭・平真小にて)
11月19日	「指導案」検討会
11月22日	研究授業(黒島教諭・6年)・授業研究会
12月4日	「研究のまとめ」についての話し合い
12月8日	「研究集録」製本
12月26日	八重山地区教育課程研究集会以て発表

#### V. 研究内容

##### ◇ はじめに

体育とは、運動の基礎的な学習をすすめることによって、健康で充実した人生がおくれるように準備する、社会の意図的・組織的・計画的な営みである。

##### 【楽しい体育】理論における運動の「楽しさ」について

運動の「楽しさ」というものを次のように考えた。

☆いろいろな運動の特性にふれる (広がり)の側面)

・子どもの運動指向性は小学校期に最も発達すると言われている。

小学校期は、まさに運動の特性に触れて、小さな成功の喜びを増やすための、最適期である。

☆めあてや学習内容が発展していく《深まり、高まりの側面》

- ・喜びは、人間の内からの自発的な努力を先決条件とする。目標達成にチャレンジする過程の努力が大きければ、それだけ楽しさの深まりが感じられる。

### 低学年・中学年・高学年の学習の考え方

学習段階を大まかなめやすとして次のように考えた。

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を楽しむ</li> <li>・個人種目に関する学び方を身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団種目に関する学び方を身につける</li> <li>・個人種目に関する技能に関心をもつ。</li> <li>・自主的に学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能を高め、より深く特性に触れる。</li> </ul>
運動を楽しくおこなう	運動の楽しさにふれる	

### 主体的体育学習を支える授業形態

- ① 一人ひとりのめあてが、明確であること
- ② 場づくりが豊かであること
- ③ 練習の場が常に解放されていること
- ④ 学習の仕方がわかっていること

### 1. 研究目標

一人ひとりが、自主性を身につけながら、意欲的に学習がすすめられるようにするための、学習の手だてを明らかにする。

## 2. 研究の仮説

- (1) 《野球型》運動の特性を明らかにし、その特性に触れるような授業を仕組みば、楽しさを味わうことができるだろう。
- (2) 子供の側から運動に対する欲求を取り入れたら、楽しく活動ができ、自発的・自主的な学習へと発展していくであろう。
- (3) 場やルールを工夫すれば、経験の少ない女子も楽しく学習ができ、作戦をいかして楽しむことができるだろう。
- (4) 学習の助けになる資料を準備したり、チームや自己評価用のノートを記入させることにより、チームや個人で能力に応じたためあてをもち、意欲的に学習が進められるだろう。
- (5) 対抗戦を行うことにより、同じ力量の相手との対戦であれば何とか勝とうとする作戦の工夫や努力がみられるだろう。

## 4. 《野球型の運動「ソフトボール」》に対する

### 基本的な考え方

ソフトボールは、一人ひとりの児童がもっている内在的な「力」がそのまま「能力の差」としてあらわれることから、個人差を前提とした「個にあわせる」「個を伸ばす」という、いわゆる《個に応じた学習指導》の創意・工夫が必要になってくる。

それには、まず個人差をきちっと押え、今ある児童の期待や要求を理解するとともに、現在の力量から児童がどのような楽しみ方ができるかを把握し、ソフトボールのもつ特性に触れることができるような、「楽しさ体験」が保障できる授業を仕組みなければならないだろう。つまり、どのようなめあてを持たせれば、楽しく学習することができるか。どんなルールにすれば仲間どおし協力しながら一人ひとりが楽しくゲームをすることができるかなど、学習のねらいや内容をできるだけ具体化して授業を仕組みてみようと思う。

### (1) 一般的特性

2チームが攻撃と防御に分かれ、攻めのチームは打者がボールを打つことにより、走者を進塁させ、多くの得点を得るところに楽し

さがあり、守りのチームは打者や走者を進塁させずにアウトにするところに楽しさがある。

交互に攻撃と守備を交代しあって、規定の回数内で得点を競い合う集団スポーツである。

また、チームプレーにもかかわらず、投・打・捕の個人の技能がはっきりあらわれる集団スポーツである。

ソフトボールはルール、上攻め・守りがはっきり分かれ、また各プレーヤーの守備位置や役割が決まっている。

◆ 野球型ボール運動の技術的特性をあげてみると

- ① 攻撃的技術 . . . . . 攻めるための個人や集団の技術
- ② 守備技術 . . . . . 守るための個人や集団の技術

に分けることができる。また、技能面をとらえてみると

- ① 個人的技能 . . . . . 投げる・打つ・捕る・走るの基本的な技能
- ② 集団的な技能 . . . . . 攻め・守りの両面で、個人の基本的技能を生かしながら、コンビネーションプレーへとつなげていく。

このように、「ソフトボール」の特性をとらえ、授業を組織化する授業づくりの視点を次のように考えた。

(2) 授業づくりの視点

① 男女混合のチーム編成

児童は小さいボールを操作する経験が少なく、技能の個人差や男女差が大きい。また、未経験のため、ルールを全く知らない女子が多く、男女の協力等、チーム内の相互協力が欠かせないことから、男女混成のチームの編成を原則とする。

また、競争型の集団スポーツでは、勝敗の結果の未確定性が重要となるので、チーム間の力が均等になるように配慮する。

## ② ボールの選択

通常のボールだと、初めての経験の児童には、固くて痛い・ボールが飛んでくるのが怖い等、ゲームそのものを敬遠しがちになることが考えられることからややかためのノーパンクボールのソフトボールが良いと考える。

まとめの段階では通常のソフトボールの使用も経験させたい。

## ③ 基本的なルールのおさえ

正規のルールで行うと、ゲーム進行や楽しさの面で難点が多いと考えられるため、以下の基本的なルールを確認する。

### ◇ フォアボールと三振なし

フォアボールなしは、子供の審判技能の問題とゲーム進行の効率を考えての配慮であり、三振なしは、誰もが「打つ」「走る」という経験ができ、運動量の確保にもつながる。また、技能の未熟な児童でも三振がなければ、安心してバッターボックスに立っていられると考える。

### ◇ 離塁（リード）なしと盗塁なし

離塁・盗塁があると、バッターをアウトにする技術より、走塁の方が勝り、ゲーム進行の効率から考えてもこのルールを取り上げていこうと考える。また、離塁なしは、ソフトボールのルールに近づくことにもなる。

### ◇ バッターが一巡したら攻守を交代する

授業の中での限定した時間内でゲームを展開するのに、ワンサイドゲームで終わらせず、一人一人にバッティングの機械を与え、野球型の特性に触れさせたいと考える。

### ◇ 攻守交代や試合毎にポジションを交代する

野球型ボール運動は、ポジションにより、比較的運動量の差が大きく、「ゲーム中に一度もボールがこなかった」ということも予想される。

そこで、運動量の確保という点と公平な活動の保証という点をおさえ、ポジション交代制を行う。

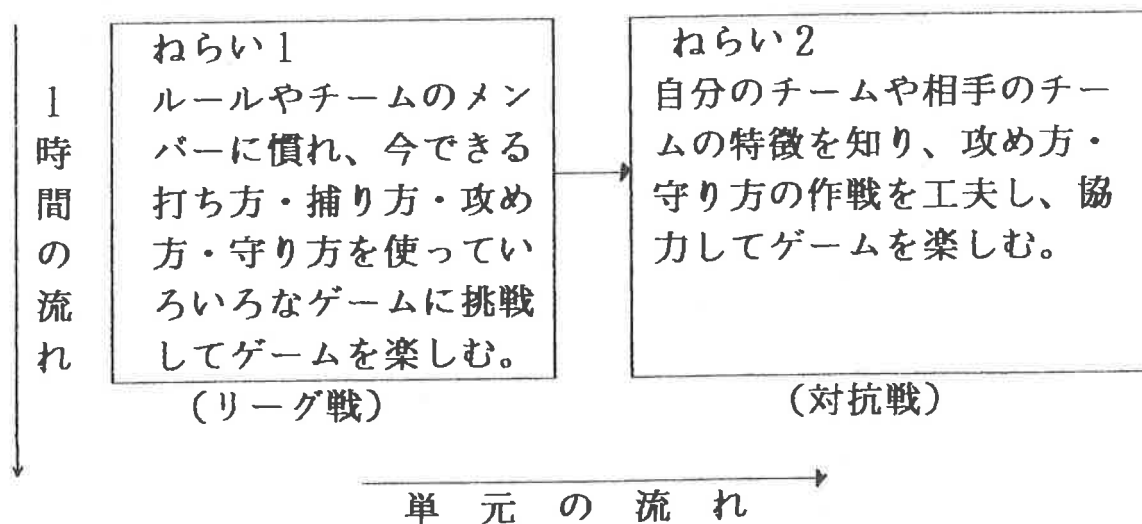
◇ 三角ベースの導入

正規のコートで行うと、技能のレベルにより、「ゲームを楽しむ」ことが難しくなると考えられる。三角ベースだとコートがせまいため、バッターをアウトにするチャンスが増え、ゲーム効率からもよいと考える。

まとめの段階では、技能の高まりの中から四角コートでゲームを行わせてみたい。

そこで、上記の「特性」と「授業づくりの視点」をふまえ、ソフトボールの楽しさを味わわせる学習過程を次のように設定した。

(3) 学 習 過 程



相手チームの力を知ってそれに対応した作戦を工夫して相手に挑戦をするためには、リーグ戦よりむしろ対抗戦の方が、特性を求めやすい。

同じ力との対戦であれば、何とかして勝とうとする努力や工夫が重ねられる。

また、勝敗の未確定性やゲームに対する緊張感が持続すれば、ゲームの発展が期待できる。



#### (4) 望ましい学習活動の姿

- ・学習の仕方がわかり、自発・自主的に学習している。
- ・自己（チーム）のめあてにそって活動している。
- ・資料活用の方法や学習の進め方がわかっている。
- ・めあてを解決するために、友達や先生に相談できる。
- ・友達どおし認めあったり、教えあったりできる。
- ・勝敗の原因を一人の児童に押し付けることなく、お互い励ましあって、ゲームを楽しむことができる。
- ・安全に留意し、学習をすることができる。

#### (5) 指導のポイント

##### ① 技術指導のポイント

##### 打ち方・走り方・捕り方・投げ方

###### ◆ 打ち方

- ・ピッチャーの投げたボールを最後までよく見て、目を離さないで打ち返す。
- ・バッターはホームベースに正対し、腰をキャッチャーよりにひねり、打つ側の腕を後ろに引いて構える。
- ・打つと同時に腰をひねり、バットをふりぬく。

###### ◆ 走り方

- ・ボールが内野に飛んだら、全力で一塁ベースをかけぬける。
- ・外野にフライが上がったら、エラーの場合を考えて、あきらめずに全力で走る。
- ・一塁にいるとき、フライが打たれたら、打球の行方を見て進塁をする。
- ・一塁にいるとき、ゴロが打たれたら、二塁へ走る。

###### ◆ 捕り方

- ・野手はピッチャーがボールを投げた瞬間にひざを曲げ、かかとを上げて構え、どちらの方向にも素早く移動し、体の正面でボールが捕れるようにする。
- ・フライボールは、声をかけ肩より上で捕る。
- ・ゴロのボールは、前進して片ひざをついて、タイミングを合わせて捕る。
- ・ボールが自分の守っている場所にこなくても、常にカバーリングを心がける。
- ・ボールを捕るときには、伸ばした腕をひきつけてひじを曲げながら捕る。

#### ◆ 投げ方

- ・投げる手の反対を一步踏み出し、重心を後ろ足から前足に移動させながら、手首のスナップをきかせてボールを投げる。
- ・相手の旨をねらって捕りやすいボールを投げる。

## ② チームと個の関係

### チームで身につける内容（チーム戦術）

- ・ポジションの決定
- ・打順の決定

### 個人で身につける内容（投・打・捕の技術）

#### 攻守の場面

- ・攻撃（得点をより多くとるために必要な作戦を協力し合ってやる）  
例・・・走者を進める打ち方、バント等
- ・守備（中継プレー・バックアッププレー）

## (6) 児童の学習活動（自主・主体的学習）の段階

児童の自主・主体的活動を重視し、そのレベルを次のように押さえる。

### ① 《学習の楽しさ》のレベル

- |   |
|---|
| A, その運動（ソフトボール）に関心がある。<br>B, 勝ち負けに関心がある。<br>C, 攻撃や守備がうまくできるようになることに関心がある。<br>D, 練習方法を考えたり作戦を工夫することに関心がある。 |
|---|

A～Dへ移行する中で、学習の楽しさは深まっていく。  
この楽しさの深まりは、技能の向上と、学び方の高まりに密接な関係をもつ。

### ② 《学び方》のレベル

- |  |
|--|
| A, 先生の指示によって、学習をすすめる。<br>B, 友達と協力してと学習をすすめる。<br>C, 資料を活用して学習をすすめる。<br>D, 創意・工夫して学習をすすめる。 |
|--|

Aレベルを否定するものではないが、資料を使って、仲間と協力し、つまずきの解決がなされるC, Dのレベルの学習が、自主的学習の形として望ましい。

本当の意味で、子どもが自主的に運動に親しむようにするには、どうしても子ども一人ひとりに対応できる学習の場が必要になってくる。子どもが資料を活用しながら、自らの問題点（つまずき）およびチームの問題点をつかみ、解決のための工夫ができるようになったとき、「運動のもつ楽しさを自分のものにする」という、体育における《学習》が成立する。

③ 《めあて》のレベル

- |   |
|---|
| A, 一生懸命がんばる。<br>B, チームのためにがんばる。<br>C, 技能のポイント<br>D, 練習の工夫 |
|---|

技能と学び方が高まれば、めあての質も高まり、特性にふれる学習の楽しさにも深まりがみられる。つまづきに気づき、その解決のための工夫を、めあてとしてたてられるレベルが「自己の能力にあっためあて」ということができ、レベルでいえばC, Dということになる。

以上のような、「基本的な考え」にもとずいて、単元計画を作成し授業を実践してみた。

メモ

## VI. 実践

### 授業の実際

#### 体育学習指導案

11月9日(土) 4校時

平真小学校6年2組

指導者 吉浜 剛

1 単元 ソフトボール

2 運動の特性

(1) 一般的特性

2チームが攻撃と防御に分かれ、攻めのチームは打者がボールを打つことにより、走者を進塁させ、多くの得点を得るところに楽しさがあり、守りのチームは、打者や走者を進塁させずにアウトにするところに楽しさがある。

交互に攻撃と守備を交代しあって、規定の回数内で得点を競い合う集団スポーツである。

(2) 子供から見た特性

- ・これまでの運動経験から、男子に好きな子が多い。
- ・スリリングなプレーやゲーム(接戦になったとき・打ったり、走ったりしてクロスプレーになったとき)があるとき楽しい。
- ・ヒットや大きな当たりを打ったとき楽しい。
- ・チームで協力できたとき楽しい。
- ・文句を言われたら楽しくない。
- ・アウトやセーフで言い争いになら楽しくない。
- ・三振したら楽しくない。

### 3 学習のねらいと道筋

ねらい① ルールや約束を守って、今できる打ち方・とり方・攻め方・守り方で、お互いに励ましあって、協力してゲームを楽しむ。

ねらい② 自分のチームや相手のチームの特徴を知り、攻め方・守り方の作戦を工夫し、協力してゲームを楽しむ。

### 4 時間配分 (8時間)

分/時	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10分	は			ね			ね		ま
20分	じ			ら			ら		と
30分	め			い			い		め
40分				①			②		

### 5 学習活動と指導

は じ め 90 分	1. 学習のねらいや活動を理解し学習の進め方について見通しをもつ	施	
	2. グループと役割分担をする ・グループは、男女混合できるだけ同じ力になるように7~8人の4チーム編成とする ・キャプテン・用具係(2人)・記録係・審判(3人) ・用具の準備の仕方・使い方を理解する ・ルールやマナーについて確認する	設 用 具	ベース6 ・ボール20個 丸めた新聞多数 バット8本 テニスラケット4本 グローブ31 掲示板 資料 学習カード

	ねらいと活動	指導上の留意点
はじめ	<p>1. 基本のルールと練習</p> <p>全員で基本的なルールを決める。</p> <p>グローブのもち方・バットの握り方</p> <p>ボールの取り方・投げ方・塁間の走り方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールのわからない子は、チーム内<sup>で</sup>教え合う。</li> <li>・投げ方等は男女出組んで教え合う。</li> </ul>
なか	<p>ねらい①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ルールや約束を守って、今できる打ち方・とり方・攻め方・守り方で、お互いにはげましあって協力してゲームを楽しむ。</p> </div> <p>1. コート・用具の準備を</p> <p>2. 準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ</li> <li>・ベース（ジョギング・スキップ・ダッシュ）</li> </ul> <p>3. 今日の学習のめあてやルールの確認、ゲームの組み合わせの確認</p> <p>4. 練習</p> <p>（練習例）2チームで1コートを使って練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担をして素早く準備をさせる。</li> <li>・キャッチボールは体をほぐすていどにやる。</li> <li>・女子はルールを知らない子がおおいのでしっかり確認する。</li> </ul>
か 45	<p>＜コート内のチーム＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打撃と守備に分かれての練習</li> </ul> <p>＜コート外のチーム＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トスバッティング</li> <li>・キャッチボール</li> </ul> <p>5. ゲーム（リーグ戦）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・守備位置をかわりながらさせる。</li> <li>・トスバッティングはしっかりふりきらせる。</li> <li>・攻守交代はすばやく</li> </ul>



<p>× 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角ベースボール</li> <li>・打者一巡で攻守交代</li> <li>・回ごとに守備位置交代</li> <li>・フォアボールと三振なし</li> <li>・離塁と盗塁なし</li> </ul> <p>6. 今日の学習の反省</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードの記入</li> <li>・チームの反省</li> </ul>	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判は、判定をはっきりジェスチャーをさせる。</li> <li>・めあてにそった活動ができたかをふりかえらせる。</li> </ul>
<p>な か 45 × 3</p>	<p>ねらい②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分のチームや相手のチームの特徴を知り、攻め方・守り方の作戦を工夫し、協力してゲームを楽しむ</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コートや用具の準備</li> <li>2. 準備運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ</li> <li>・ベース（ジョギング・スキップダッシュ）</li> </ul> </li> <li>3. 2チーム1コートでチームの作戦をいかにさせるよう工夫しての練習</li> <li>4. ゲーム（ルールの確認） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひし形ベースボール</li> <li>・ねらい1のルールについて話し合っ て決める。</li> </ul> </li> <li>5. 今日の学習の反省</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のチームの特徴を話し合いの中からつかませる。</li> <li>・相手チームの攻撃を防ぐ工夫を考えさせながらゲームをさせる。</li> </ul>

ま と め 45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大嶺杯トーナメント試合をする</li> <li>・励ましながら楽しくゲームができたか</li> <li>・作戦をいかした練習をし、工夫してゲームができたか。</li> <li>・協力して学習を進めることができたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が楽しくゲームに参加できた</li> <li>を中心に話し合いをさせる。</li> </ul>
--------------------	--	---

## 6 本時 (9/5) の学習と指導

### (1) ねらい

ねらい① ルールや約束を守って、今できる撃ち方・とり方・せめ方・守り方で、お互いにはげまし合って協力してゲームを楽しむ。

### (2) 展開

は じ め 8分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コート2面をつくる。</li> <li>2. 準備運動をする。</li> <li>3. チームで今日のめあてや打順・ポジション・練習方法について話し合う。</li> </ol>	<p>準 備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール20個</li> <li>・ベース6</li> <li>・得点板2</li> <li>・バット4</li> </ul>
	学習のめあてと活動	指導上の留意点
な か	<p>ねらい①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ルールや約束を守って今できる打ち方・とり方・せめ方・守り方で、お互いにはげまし合って協力してゲームを楽しむ</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 2チームで1コートを交代で使って練習をする。(3分交代)</li> </ol> <p>※練習の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コート内のチーム</li> <li>打撃と守備に分かれての実践練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が少ないので、交代をきびんに行わせる。</li> </ul>

32分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コート外のチーム</li> <li>キャッチボールやトスバッティング</li> <li>5. 前半のゲームをする。</li> <li>・打者一巡したら攻撃と守備が交代 (前半と後半の合計点で勝敗を決める)</li> <li>・守備位置は前半と後半で変える (前半、内野を守ったら、後半は外野を守る)</li> <li>6. 話し合い</li> <li>・守備位置や打順の確認</li> <li>7. 後半のゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割をしっかりとさせる。</li> <li>・次の打者まで準備し、他は審判や得点係につく</li> </ul>
まとめ5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>8. 今日の学習の反省をする。</li> <li>・学習カードの記入</li> <li>楽しくゲームができたか</li> <li>協力して学習ができたか</li> <li>・チームの次時のめあてを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が楽しくゲームに参加できたか、チームが協力してできたか話し合わせる。</li> </ul>

## 授業後の反省

### 授業者より

- ・生涯スポーツをめざしての学校体育をねらいとしている。
- ・男女混合のチームにした結果、教えあいの中から女子もソフトボール競技の理解ができていった。
- ・めあて1で授業をしたが、めあて2になると、対抗戦になるので、作戦の工夫が見られて行くだろう。
- ・ノーパンクボールに変えてから、ボールを怖がらずに積極的にボールを取りに行く姿が見られた。
- ・年間計画の中で、学校にプールがないので、水泳に当てる時間を使った。
- ・三角ベースで行ったが子供から四角ベースでやりたいとの声が出たら、それに応えて行きたい。

### 質疑応答

- Q 三ベースだと、ファールが多くなることが予想されるが・・・
- A 普通の三角ベースより広げてある。めあて2入ったら、子供たちが作戦の工夫などによりファールにならないように考えて行くと思う。
- Q チーム編成は固定しているのか
- A 力をほぼ均等ににしてチーム編成をしているのでチーム間で文句が出るようなことは見られなかった。欠席者のいるチームは、相手チームと話し合いをさせた。
- Q ルールはどのように作っていったか
- A 子供からのアンケートを参考にし、男女みんなで楽しめるような基本的なルールは説明し、みんなで決定して行った。ゲームを進めていくうちに、問題が起きたら相談して、ルールやマナーを増やしていった。
- Q なぜノーパンクボールを使用したか

A 普通のソフトボールも準備はしていたが、野球型の特性に触れさせるためには、特に小学校では痛くない・怖くないボールの必要性を感じた。その効果は大きかったと思う。

Q ボールの処理の仕方の不慣れがあったが・・・

A ハンドベースを経験しないでソフトボールに入ったため、特に女子は仕方がないと思うこの單元では、ソフトボールの特性に触れさせ、生活の中で取り入れて行ってくれたらと思う。そのことが、生涯スポーツの観点からも大切だと思う。

Q 審判のカウントの取り方は・・・

A 3・4年でハンドベースをしていないことが問題である。それができたら、5・6年で正規のルールを取り入れてソフトボールができると思う。

基本的なカウントの取り方を見せるのも大切だと思う。アウトにはしないが、カウントをとってあげることによって選球の目もできてくるだろう。

## まとめ

これまで、クラブ活動の時間や学級のイベントとしてソフトボールを行ってきたが、授業として行うのは初めてであった。

野球型の運動文化を子供達に触れさせることは、意味や価値がある。

他のスポーツにはない集団スポーツの魅力がある。

指導要領から外されていたソフトボールを子供の側の立場に立って自主編成することにより、子供達が生き生きと取り組む授業の展開ができたように思う。

## 今後の課題

- ・1時間(45分)の中で、ゲーム・練習をどう取り入れていくか。
- ・ゲーム進行中の子供間の問題をどう解決させるか。
- ・評価をどのようにしたらよいか。

## アンケートの結果より

1 野球やソフトボールは好きですか

はい(19)      いいえ(7)      わからない(5)

2 野球やソフトボールをやったことがありますか

はい(26)      いいえ(5)

はいと答えた人は

(どんなときに楽しかったですか)

- ・バットで打てたとき      ・同じ力で接戦になったとき
- ・チームが協力できたとき      ・良いプレーができたとき
- ・点数がたくさんはいったとき      ・打って走ってセーフになったとき
- ・大きいあたりでランナーをかえしたとき

(どんなとき、楽しくないですか)

- ・文句を言われたとき      ・点数差がついたとき
- ・ルールを守らないとき      ・ボールがこなかったとき
- ・エラーをしたとき      ・いじけている人がいるとき
- ・チームの力に差があるとき      ・三振したとき

3 野球やソフトボールのルールを知っていますか

知らない(9)      だいたい知っている(17)      よく知っている(5)

4 どんなことに気が付いたら、みんなが楽しくソフトボールのゲーム  
ができると思いますか

- ・文句を言わない(23)      ・同じ力ぐらいのチームにする(4)
- ・なかよく協力する(8)      ・安全に気をつける
- ・よくボールがくるころは、試合ごとに守備を交代しながらやる

# ソフトボールを終えてのアンケート

①ソフトボールは楽しかったですか

はい (26人)                      まあまあ (5人)                      いいえ (0人)

②ルールやマナーはこれでよかったですか

はい (23人)                      まあまあ (8人)                      いいえ (0人)

③ボールはこれでよかったですか

はい (29人)                      いいえ (2人)

④どんなとき楽しかったですか

- ・接戦になったとき    ・ホームランを打ったとき    ・勝ったとき
- ・点がたくさん入ったとき    ・アウトにしたとき    ・ボールをとったとき
- ・ライバルに勝ったとき    ・ヒットが打てたとき    ・機敏に動いたとき

⑤どんなとき楽しくなかったですか

- ・文句を言われたとき    ・アウトになったとき    ・点差がついたとき
- ・動作を機敏にしないとき    ・絶対勝つことが決まっているときや負けることが決まっているとき    ・セーフと思ったのにアウトといわれたとき

⑥もっと上手になるためにはどんな練習をしたらよいですか

- ・キャッチボールをたくさんやる    ・フライやボールを確実に取る練習をする    ・フライを捕られたときの動きの練習
- ・授業以外でも(昼休みや家で)練習をする
- ・素振りの練習

⑦他にどんなルールやマナーがあればよいと思いますか

- ・3アウトがあった方がよい    ・ストライク、ボールがあったほうがよい
- ・盗塁やリードがあったほうがよい

⑧みんなが楽しくするためには、どんなところに気をつければよいと思いますか

- ・文句を言わない    ・動作を機敏にする    ・ヒットエンドランなどサインプレーができることと楽しい
- ・安全に気をつける    ・審判はきちんとアウ、セーフのコールをする

ソフトボールの授業を得て	浦崎	しづか	先生から、体育の授業を	ソフトボールを	するということを知いて	うま、とイヤでし	た、それは、やめられい	ボールでも取るの	がこめいのに、かたくて	重いソフトボールな	んで取れ、こないと思	ったからで、でも	実際にや、てみると	ソフトボールの楽しさ	が分かってきました	ボールも、やめられか	ったので、変心しました	ル、ル、ル、ル、ル	の取り方などは、先生や	千ノム男子達から	教えてくれました	絶対	又句を言わない	ということを、マナーに	入らな、たので	文句を言う人もいなくて	楽しくできました	そして、前までは	きらいだ、たソフトボ	ールが、今では、少し好	きたなりました、千	ノムのメンバ、も、みな	なやさいい入だ、たの	でよかったです
--------------	----	-----	-------------	---------	-------------	----------	-------------	----------	-------------	-----------	------------	----------	-----------	------------	-----------	------------	-------------	-----------	-------------	----------	----------	----	---------	-------------	---------	-------------	----------	----------	------------	-------------	-----------	-------------	------------	---------

ソフト	ボール	の	授業	を	得	て	浦	崎	し	づ	か	先	生	か	ら	、	体	育	の	授	業	を	ソ	フ	ト	ボ	ウ	ル	を	す	る	と	い	う	こ	と	を	知	い	て	う	ま	、	と	イヤ	で	し	た	、	そ	の	は	、	や	め	ら	れ	い	い	ボ	ウ	ル	で	も	と	る	の	が	こ	め	い	の	に	、	か	た	く	て	重	い	ソ	フ	ト	ボ	ウ	ル	な	ん	で	取	れ	、	こ	な	い	と	思	っ	た	か	ら	で	、	で	も	実	際	に	や	、	て	み	る	と	、	ソ	フ	ト	ボ	ウ	ル	の	楽	し	さ	が	分	か	っ	て	き	ま	し	た	、	ボ	ウ	ル	も	、	や	め	ら	れ	か	っ	た	の	で	、	変	心	し	ま	し	た	、	ル	、	ル	、	ル	、	ル	、	ル	の	取	り	方	な	ど	は	、	先	生	や	、	千	ノ	ム	の	男	子	達	か	ら	教	え	て	く	れ	ま	し	た	、	絶	対	に	、	又	句	を	言	わ	な	い	と	い	う	こ	と	を	、	マ	ナ	ー	に	入	ら	な	、	た	の	で	文	句	を	言	う	人	も	い	な	く	て	、	楽	し	く	で	き	ま	し	た	、	そ	し	て	、	前	ま	で	は	、	き	ら	い	だ	、	た	ソ	フ	ト	ボ	ウ	ル	が	、	今	で	は	、	少	し	好	き	た	な	り	ま	し	た	、	千	ノ	ム	の	メン	バ	、	も	、	み	な	な	や	さ	い	い	入	だ	、	た	の	で	よ	か	っ	た	で	す
-----	-----	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



ソフトボール

ソフトボールを体習てるときは僕は、野

球はあまり好きではなかつたけどソフト

ボールはあまりバットに当たらない僕で

もバツバンあてて前の時間なにかラン

ニングホームラン三ベースヒットとうた

えのとキのかんしよくかままも残ってハ

ます。

それにノールンカボールはあつても

いたくないので夕方に魚くまますのせ

いにからも45分ずつちりソフトボ

ルはできるのです。それをわすれな

いでた

ソフトボール

目録 遠立

次の体育の時間からソフトボールを二

と言う先生の声で僕の耳に入。た

僕はこれまで野球さか。ところがあつた

あまり楽しいとは思わなかつた

でも僕はソフトボールができてよか

なと思こいる

バツラング練習とかキチホーしとか

でナイロウクがわかかこころんごん

僕は友達と野球をするのがいやにな

た

きいあ

エライでしたりすると文句を言われ

たうごの日はユラりのたごの友達の声

が耳たとりついていてみるまに友達の文句

僕が耳に入。こくるぐら

たし今ほちかうたえエウーしたとし

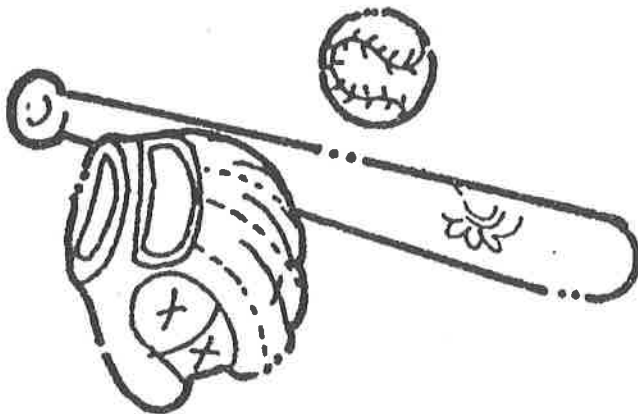
も友達の人まるといこくねるの

せうなれてプレイできるようになった。





資 料



# 単元 ソフトボール

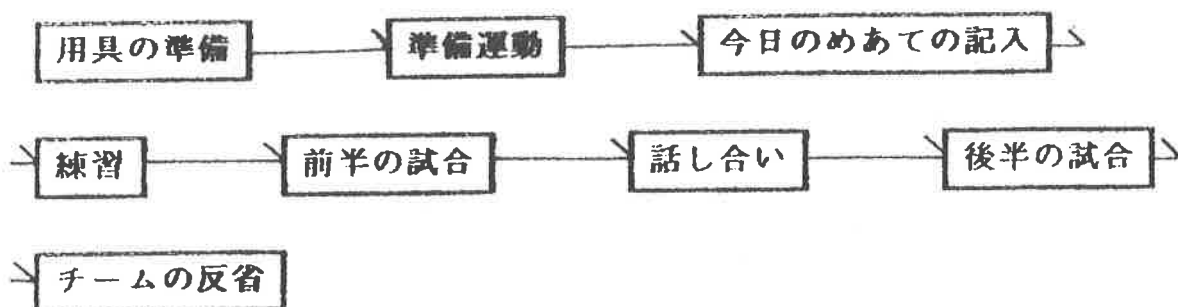
## めあて 1

ルールやチームのメンバーに慣れ、今できる打ち方・とり方・せめ方・守り方を使って、いろいろなチームにちょう戦してゲームを楽しむ

## めあて 2

自分のチームや相手のチームの特徴を知り、せめ方・守り方の作戦を工夫し、協力してゲームを楽しむ

## 1 時間の学習の進め方



### (1) 用具の準備

コート2面	ホームベース2	るいベース4
ソフトボール用バット4	テニスラケット4	グローブ
ソフトボール25個	得点板2	掲示板

### (2) 準備運動

- ・ストレッチ
- ・ベースランニング2周
- ・ベースダッシュ1回
- ・キャッチボール (近くからしだいに離れていく)

### (3) めあての記入

- ・打順、ポジションをきめる
- ・チームのめあてをきめる
- ・個人のめあてをきめる
- ・どんな練習をするかきめる

### (4) ・前半の試合

- ・こうげきのチームが審判をする
- ・こうげきとまもりの交代は走ってすばやくする

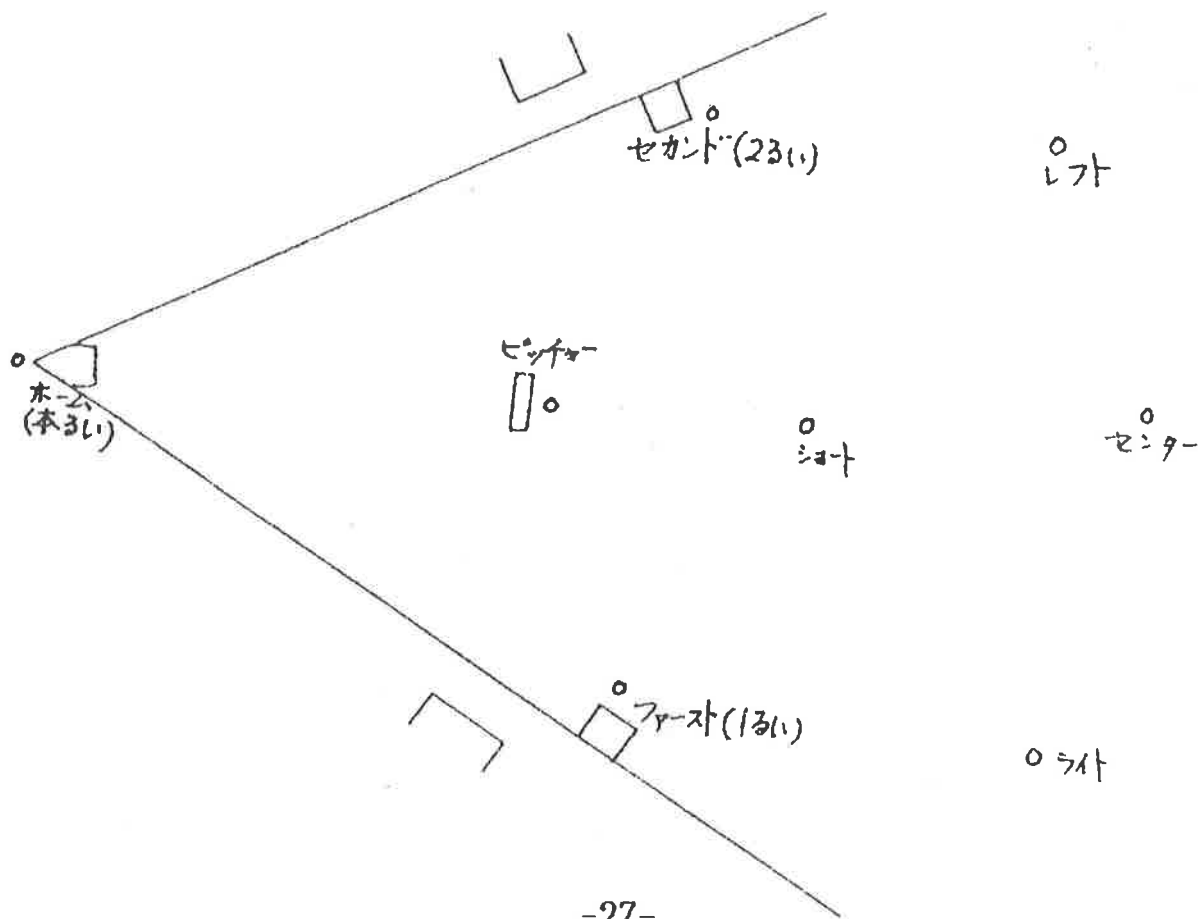
### (5) チームの話し合い

- ・前半の試合をふりかえり、後半はどんなせめ方や守り方をすればよいか相談する（打順をかえてもよい）

### (6) 後半の試合

### (7) チームの反省

- ・試合をふりかえって、チームや個人のめあてについての反省



# 作 戦 カ ー ド

対戦相手チーム ( チーム)

ポジション		名 前	役 割 分 担	打 順
前半	後半			

## ポ ジ シ ョ ン

(ピッチャー・・・ピ, キャッチャー・・・キ ファースト・・・  
 フ, セカンド・・・セ, ショート・・・シ, レフト・・・レ,  
 センター・・・セ, ライト・・・ラ)

※ 前半、内野を守った人は後半は外野を守る

## 役 割 分 担

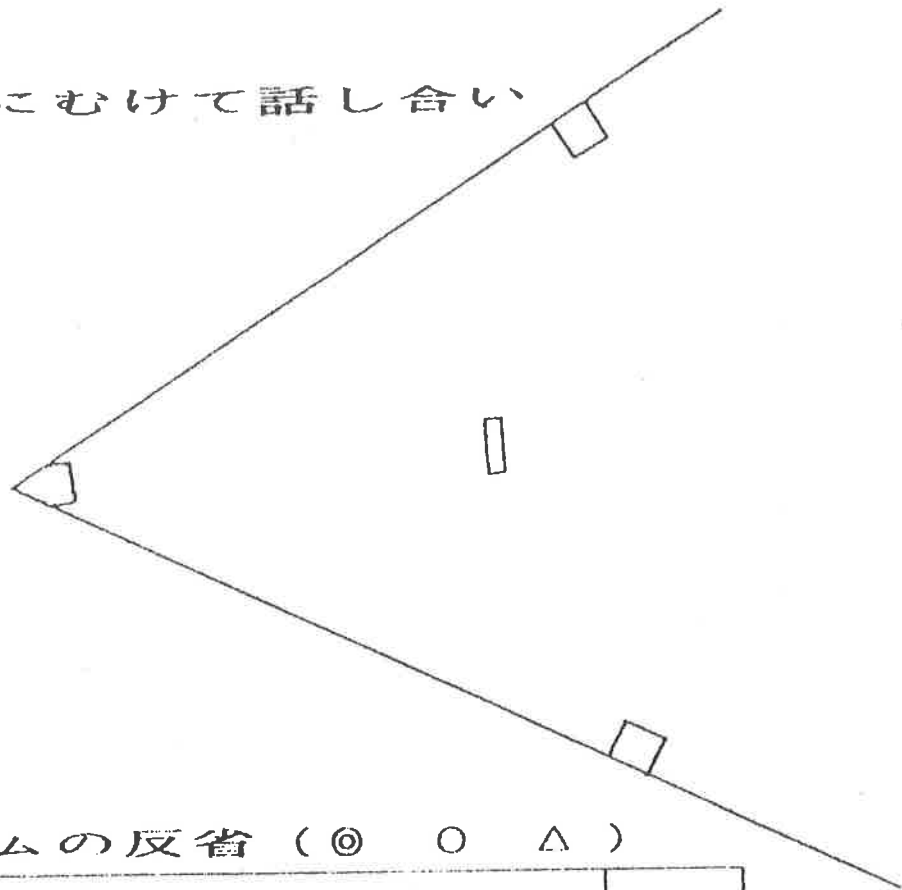
キャプテン, 副キャプテン, 審判 (ホーム, ファースト, セカンド)  
 得点係

# チー ム カ ー ド

(1) チームのめあて

--

(2) 試合にむけて話し合い



(3) チームの反省 (◎ ○ △)

1	めあてを達成できたか	
2	作戦どおりにうまくできたか	
3	守りはうまくできたか	
4	こうげきはうまくできたか	
5	ルールやメンバーに慣れてゲームが楽しくできたか	
6	ボールあつかいに慣れて、ゲームが楽しくできたか	



# 個人カード

## 私のめあて

/	
反省	
/	
反省	
/	
反省	
/	
反省	
/	
反省	
/	
反省	
/	
反省	
/	
反省	

よくできた ◎    できた ○    もうすこし △

こうげきはうまくできたか	
守りはうまくできたか	
ルールやメンバーに慣れてゲームが楽しくできたか	
ボールのあつかいに慣れてゲームが楽しくできたか	

( ) チーム

対戦相手						
得点 (自分のチーム対相手)		対	対	対	対	対
相手 チ ー ム	中心に なっているひと					
	とるのが うまいひと					
	投げるのが うまいひと					
	よく打てるひと					
	その他 (弱点など)					
じ ぶ ん の チ ー ム	よい点			悪い点		

## 基本的なルール

- 1 前半と後半は守備をいれかえる
- 2 こうげきは、チーム全員がおこない、何点をいれたかで勝負する
- 3 フォアボールとさんしんはとらない
- 4 リードととるいはなし
- 5 慣れない女子はテニスラケットで打ってよい
- 6 三角ベースでおこなう
- 7 1チーム7～8人の4チームをつくる

# めあてや作戦の例

## 1. 打つときの作戦

(できるだけ多く得点するせめ方)

- 1 ゴロを打つ
- 2 打ったら、全力で1塁に走る
- 3 守っている人がいないところへ打つ
- 4 球を強く打つようにする
- 5 ランナーがいるとき、ランナーを進める打ち方をする

## 2. 守るときの作戦

(できるだけ得点をさせない守り方)

- 1 かたまらないで守る
- 2 打者によって守るところをかえる
- 3 ボールが後ろへぬけたとき、近くの人がボールを取りに行く
- 4 ボールが遠くへ行ったとき、パスをしてつなぐ
- 5 前で守っている人のカバーをする
- 6 ランナーがいるときには、アウトになりやすいところに投げる

## 3. 投げるとき

- 1 かたや足を後ろにひいてから投げる
- 2 かたより上からボールを投げる
- 3 相手の胸をねらって投げる

## 4. 打つとき

- 1 両足をバッターボックスに平行にかまえる
- 2 ボールをよくみて打つ
- 3 打つと同時にこしをひねってバットをふりぬく

## 5. とるとき

- 1 ボールをよくみて両手でとる
- 2 フライは、頭より上グローブを上にもかけて両手で取る
- 3 ゴロのときは、こしを低くしてとる

○グローブのつけ方



- ・5本の指をグローブのそれぞれの指穴にしっかり入れる。

○ボールのにぎり方



- ・2本指でにぎる。手の小さい子は3本指にする。この際、ボールと手のひらは触れないようにする。

○バットのにぎり方



- ・親指以外の4本の指を開いて指のつけ根の部分にバットを乗せる。4本の指で、そして親指でしっかりとにぎる。もう一方の手も同じ様々にぎる。
- ・手が重なったり、離れたりしない。



⑦ バットいっぱい  
ににぎる法  
(腕力のある子)



⑧ 1~2にぎり残  
してにぎる法  
(振りやすい)

○ピッチャーは下手投げ



ピッチャープレート上に両足をのせ、両手でボールをかかえる。  
足を一步前へ踏み出して投げる。

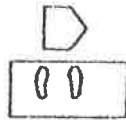
フライ



- 両手でとる。
- フライの高さ、速さ、方向をすばやく判断し、落下点へ一直線に走る。

スタンス (足の構え方)

両足をバッターボックスと平行に構える。



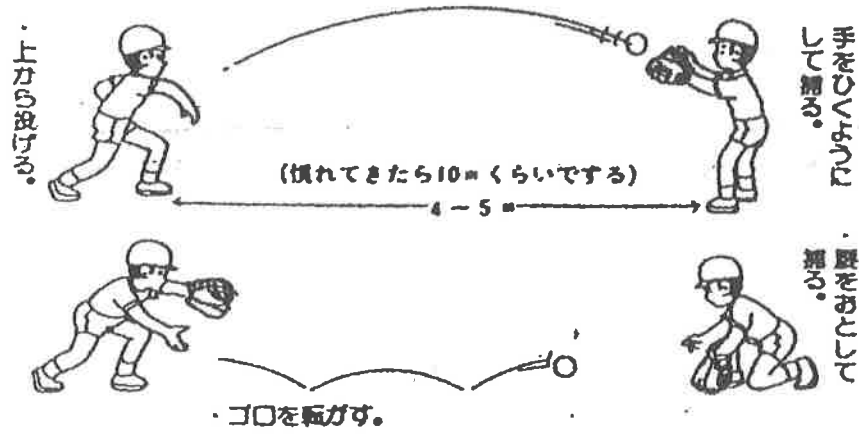
グロ



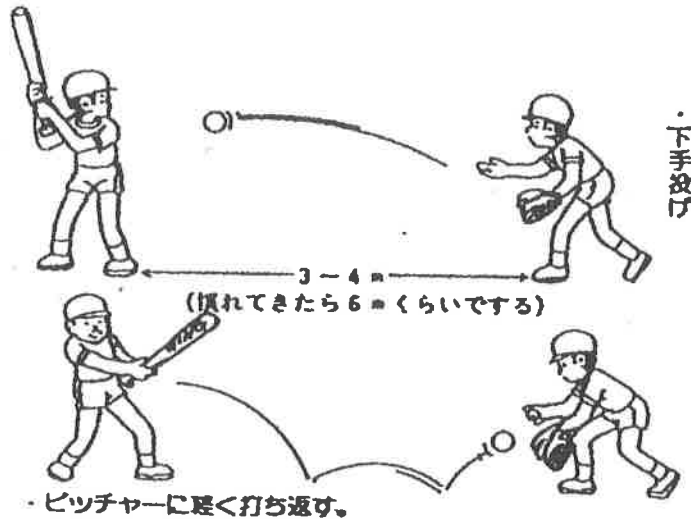
- グローブの網のところやドテのところにとらない。
- バウンドに合わせ、とりやすい高さでとる。
- 前進し、少ないバウンドでとる。
- とるときは腰を低くする。

# 基本の動作

## 【投げる・捕る】

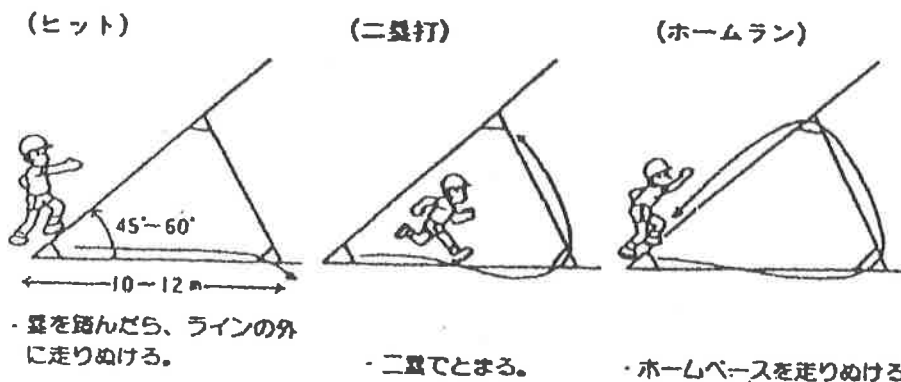


- ・相手の胸をねらって投げる。
- ・少しずつ距離を離していく。
- ・ゴロやフライを捕る練習をする。
- ・体の正面で、ボールをよく見て捕る。



- ・1対1, 1対2で打つ練習をする。
- ・ゆるいボールを、相手の高さくらいに投げる。
- ・打つ人はボールをよく見て、てのひらを開いたりにぎったりして打つ。

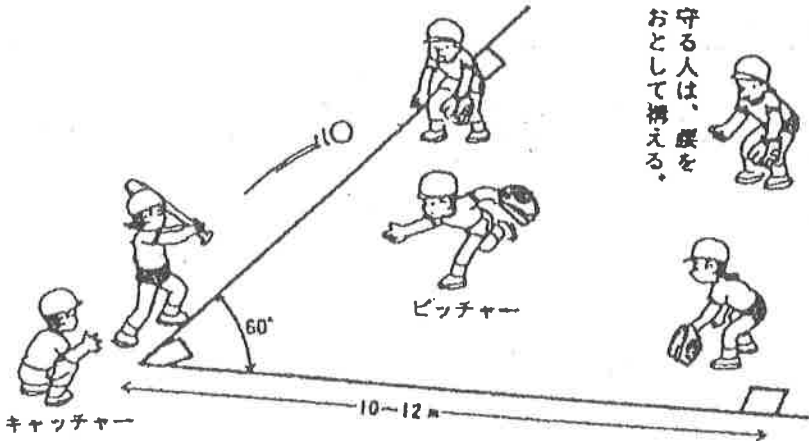
## 【走る】



- ・打ったらすぐ次の塁に向かって走る。
- ・どのようなコースをとったら早く走れるかを考えさせる。
- ・ベースを踏んで、最端距離を全力で走る。

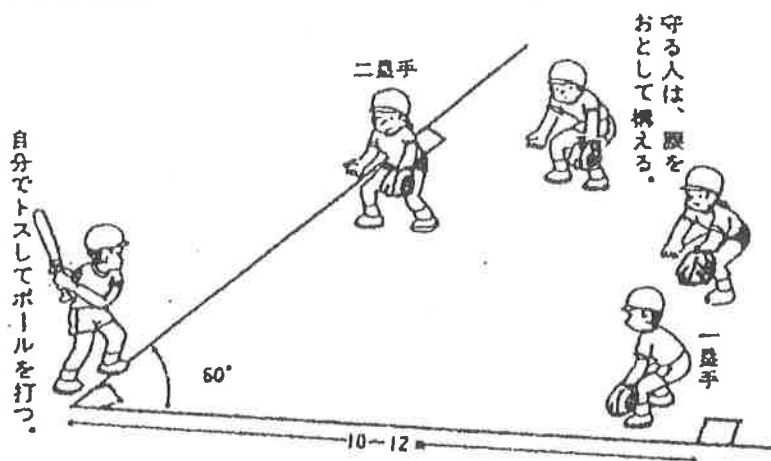
## 打つ・守る・走るの練習

### 【打つ練習】



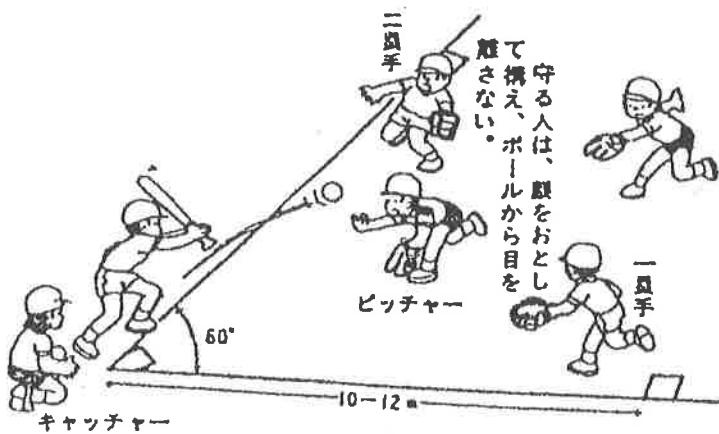
- 4～6人のグループで練習する。
- 1人が5回打ったら交代する。
- ボールをよく見て、強さや方向を考えてねらった所に打つ。

### 【守る練習】



- 4～6人のグループで練習する。
- ゴロやフライを打つ。
- 1人が5回打ったら交代する。
- いろいろな強さで打つ。
- 守っている人は、ボールを捕ったら素早く一塁手か二塁手に投げる。
- 早くバッターにボールを返す。

### 【総合練習】



- 4～6人のグループで練習する。
- 打つ順番を決め、次のバッターは、キャッチャーとなる。
- 5回打ったら交代する。5回目は、打ったら走るようにする。
- 守っている人は、ボールを捕ったら走者をアウトにするように一塁手か二塁手に送球する。



XII. 研究のまとめと今後の課題



## Ⅶ、研究のまとめと今後の課題

### 1、研究のまとめ

《野球型》の運動ということで「ソフトボール」をとりあげ、研究実践を試みてきたが、新しい種目でもあり、実践例も少なく、理論的に《ああでもない、こうでもない》と迷いつつ、お互い論争を繰り返し、ようやく「まとめ」にこぎつけることができた。

基本的に共通理解をはかっていたことは、とにかく授業実践をしてみようということと、誰がうっても、授業の組み立てがそのまま使えるようなそんな「指導案」の作成をこころみしてみようということだった。

それでは、研究の過程で、お互いがぶちあたった点を振り返りつつ、当初たてた、「研究の仮説」にそってまとめをしてみたいと思う。

◆ 《野球型》の運動の特性を明らかにし、その特性に触れるような授業を仕組めば、楽しさを味わうことができるだろう。

ソフトボールを授業で扱う時点で、まず迷ったことは、堅い普通のボールを使用すれば、必ずや、初めての児童や女の子は、ボールをこわがりソフトボールを楽しむどころか、逆に苦痛を強いることになるのではないかということだった。そこで、新しく改良して発売された《ノーパンクボール》をさっそく購入し、授業で扱ってみることにした。まず子ども達の恐怖感をぬぐいさることを、最初に工夫したのだが、このボールの使用は実践してみて成功であったと言えよう。

ところが正式のソフトボールではないボールを使用した場合、はたしてそれで「ソフトボール」の授業といえるだろうかということだった。

しかし、このように共通理解をはかった。大事なことは、正式な競技のソフトボールを指導することではなく、野球型の「ソフトボール」の特性をあきらかにし、その特性にふれさせるための指導をこころがけることが、「新しい体育」の理論にマッチするのではないかということ。

そのような理論にもとずき、授業を仕組んでみた。

子ども達は、喜々とし、どの子も楽しさを体感したことだと思う。

◆ 子どもの側からの運動に対する欲求を取り入れたら、楽しく活動ができ、自発的・自主的な学習へと発展していくであろう。

チームが同じ力で接戦になったとき楽しいという、児童の言葉から、チーム割り振りは、子ども達の意見もととりいれつつ、一緒に行った。野球部に所属し技術的にしっかりした児童をチームのキャプテンとし、チームの核となってもらった。そのため、できる子が、できない子を教えるという場面もしばしば見られ、チームごとの自主的な練習（学習）へとつながっていった。

◆ 場やルールを工夫すれば、経験の少ない女子も楽しく学習ができ、作戦をいかして楽しむことができるだろう。

場を2面つくり、ルールも、全員が打って特性にふれることができるよう、いくつか工夫した。守備も前半と後半で内外野の入れ換えを義務づけたことにより、チームごとの作戦へとつながり、女子もお荷物になることなく、楽しそうに、授業に取り組んでいた。単元の後半に、児童の意見から、3角ベースボールを正式のベース配置に切り替えた。

◆ 学習の助けになる資料を準備したり、チームや自己評価用のノートを記入させることにより、チームや個人で能力に応じたためあてをもち、意欲的に学習がすすめられるであろう。

単元のはじめに、オリエンテーションで、きちっと資料を提示して、授業のすすめかたと、学習ノートの活用法をしどうしたため、ノートを活用しつつ、児童は意欲的に学習にとりこんでいた。

◆ 対抗戦を行うことにより、同じ力量の相手との対戦であれば、何とか勝とうとする作戦の工夫や努力がみられるであろう。

どのチームも力が一定していて、勝つための作戦の工夫（バンド等）が随所に見られた。しかし、子ども達は対抗戦でなくても、何とか勝ちたいという意欲が感じられ勝つための工夫が見られたような気がする。

以上のような「研究のまとめ」から、次のような今後の課題を提起し研究のしめくりとしたい。

## 2. 今後の課題

- ・ 評価の方法 児童のやる気を育てるような評価の工夫。  
指導要録の評定とむすびつけることができるような望ましい評価のあり方。
- ・ めあての持たせ方

◆ 研究同人

吉 浜 剛 (平真小)

黒 島 一 哉 (平真小)

漢 那 憲 吉 (大浜小)

◇ 参考文献

- ・「新しい体育の考え方」(大修館書店)
- ・「さかの体育」(佐賀県小学校体育研究会)
- ・「体育学習指導書」(光文書院)
- ・「学力向上対策・指導資料」(那覇市教育委員会)
- ・「新しい体育授業の展開」(大修館書店)
- ・「学校体育」(ベースボール・マガジン社)